

# 高温障害（穂やけ症）に強い黄色グラジオラス新品種 「ひたち11号」（仮称）を育成しました

農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

本県のグラジオラス切り花は、夏期高温期を含む作型で生産されているため、高温や強日射で花穂周縁部が焼ける「穂やけ症」が発生し、出荷量や品質が低下することが問題となっています。特に黄色品種では、既存品種の中に穂やけ症に強い品種がなく、夏期に出荷可能な品種の開発が要望されていました。そこで、穂やけ症の発生が少ない特性を持つ県育成品種「プリンセスサマーイエロー」の花色突然変異体から、穂やけ症に強い黄色グラジオラス新品種「ひたち11号」を育成しました。

## 「ひたち11号」の育成経過

元品種「プリンセスサマーイエロー（以下、「PSY」）」は、花色が黄色と明橙赤色の複色で、穂やけ症の発生が少ない特性を持ちます。2007年に、「PSY」から生じた花色突然変異体を選抜し、2018年に「ひたち11号」としました。2021年に優良品性を確認し、品種登録出願しました。



写真1 元品種との花色の違い



写真2  
穂やけ症発生程度  
の違い  
※矢印は発生部を示す

## 「ひたち11号」の特性

花色は黄・薄黄で、花卉にフリルがあります。

花色以外の特性が元品種「PSY」と同様で、花は中輪、しなやかな草姿です（写真1）。

夏期高温期における穂やけ症の発生は、「バナナラマ（既存黄色品種）」と比べて少ないという特徴を持ちます（写真2）。

球根増殖性に優れ、安定した種苗供給が可能です。

## 「ひたち11号」の導入効果

市場関係者からは「花色」、「花形」が高く評価され、生産者からは夏期の出荷を担う黄色品種として期待されています。

将来的には、これまで出荷できなかった夏期を中心に、球根換算で年間10万球程度利用される見込みです。

穂やけ症が出にくい品種の導入により、等級規格の低下を防ぐことができるため、37万円／10a程度の粗収入増加が期待されます。



写真3  
「ひたち11号」の花姿